

令和7年度 小金井市立小金井第一中学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

- 「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を目指す。
- 上記の達成のため、校内・校外での研修を通して、生徒理解を深めるとともに、学校全体として授業力の向上を図る。

2 生徒の現状分析

(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査

国語	すべての観点において全国の平均を上回っている。しかし、都との正答率を比べると、4二「短歌の情景を捉える」はあまり差が見られず、3四「物語の最後の場面を書く」は少々下回っていた。特に文学的な文章に対して、単なる読み取りではなく、学んだことを生かし、自ら工夫して表現する力を伸ばしていく必要がある。
数学	すべての観点において全国の平均を上回っている。しかし、4つの領域のうち D「データの活用」に関する一部の問題で、全国の平均を下回った。ICT 教材を活用し、視覚的に理解をしていく上で、さらに思考力・表現力を育てていく必要がある。また、評価の観点「思考・判断・表現」正答率は都の平均を大きく上回っていた。生徒一人一人の考える力が身についてきている。

(2) 生徒アンケート

令和6年度生徒アンケートでは、「授業がわかりやすい」「授業や特別活動で積極的に ICT(クローズドブック)が使われている」の項目で、ともに8割以上の肯定的な回答があり、ICT 活用による学習効果に一定の成果が見られる。引き続きICTを活用しながら、「個別最適で協働的な学び」に繋がる授業展開を目指す。

(3) 各教科における授業改善の視点

国語	○小説や説明文等の文章において、読み取った内容に対し、自ら考えたことを表現する活動を増やす。 ○ICT 機器の活用にとどまらず、多角的に情報を取り入れ、取り入れた情報を活用する力を伸ばす授業作りを行う。
社会	○まなびポケットのアプリ等を活用し、得た知識を活用し、社会的課題を多面的・多角的に解決していく力を育成する。 ○デジタル教科書等の視覚的教材を効果的に使用し、学習効率を上げ、授業をより深い学びの場としていく。
数学	○「データの分析と活用」「データの比較」「標本調査」領域において、ICT を用いて実際にデータを作成、分析し、より深い学びに結び付くような指導を行う。実際の事象に対して代表値、四分位範囲、箱ひげ図、乱数を使用した無作為抽出などをスプレッドシートや図形ソフトを効果的に使用し、考察・判断・表現していく。 ○「統計教育の充実」をテーマにアクティブ・ラーニングを意識した授業展開する。
理科	○ 実験の予想や結果の処理、まとめの段階等の「個人で思考・表現する場面」において、ICT 機器を効果的に用いて思考・表現の足場架けとなるような視覚的なアプローチを増やす。 ○ 実験の予想や結果の処理・考察の段階において、スプレッドシート等を活用し、個人や班の意見・データを共有・比較・相互評価等を行うことによって、対話的に学ぶ機会を増やす。
外国語	○電子教科書や動画などのICT 機器を用いることで、生徒の関心を高めるとともに言語活動を広げるための一助とする。 ○ペア、グループでの活動を取り入れ、協働的に学び合う授業を展開する。
音楽	○実技の記録や振り返りにICT 機器(録音アプリやカメラ機能)を用い、客観的に自分の技能を確認し、技術向上を図る。 ○ペアワーク、グループワークを行い、情報を共有・比較することを通して、より具体的な技能の現状把握をできるようにする。
美術	○作品完成を目指して、効率の良い作業の方法を示し、自ら工夫して効率化を進められるようにする。 ○作品の保管場所や手順等を工夫し、スムーズな授業規律のある授業(活動)を行えるようにする。 ○作品作成において、多くの写真など参考資料を提示し発想を促すため、ICT 機器を活用する。

技術 家庭	○個別最適な学びを目指し、作業手順を動画にしてコンテンツ化した。協働的な学びを目指し、製作マニュアルを用いて、生徒同士で教え合うアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開をする。 ○製作で必要な技能の映像を繰り返し見られるようにすることで、個人の進度に合わせた学習ができるようにする。
保健 体育	○タブレット端末の動画撮影機能を活用する等して、運動の行い方やコツを視覚的に捉えられるようにする。 ○保健や体育理論の授業では、内容に関連する資料やサイトを活用して教科書の内容をより深められるようにする。 ○個人端末を活用して新体力テスト結果の分析や自己課題の解決に役立てられるようにする。
道徳	○スライドや動画の活用により、視覚的な理解を深められるようにする。 ○話し合い活動により、他者の考えにも触れて主題に対する考えを深める。
総合	○校外学習などの事前・事後学習において ICT 機器を活用し、情報収集能力や、プレゼンテーション能力を養う。 ○タブレット端末を用いて、個人や班の意見を発信したり、共有したりして協働的な学びができるようにする。